

1 近年数々の新繊維や加工法あるいは新しい染色物が市場を賑わせて我々の衣生活をより快適にしているが、文化の進むに従がいより美しく堅牢な染色と共に洗濯に耐え耐久力のある衣料が望まれる。そこで我々家政学を修める者として現在市場にある染色物がどの程度の堅牢度および耐久力をもつものであるか知る必要があると思い次のような実験を行なった、

2 市販の木綿およびレーヨンの赤・青・黄・緑・黒の各色染色布を求め、まず使用染料の部属判定を行ない、つぎに日本工業規格による堅牢度試験（洗濯・日光）によってそれらの堅牢度の格付けを行ない、なお強伸度試験をも併せ行なってみた。さらにその結果を光電分光光度計にて測色し染色濃度、色差等について検討して規格とほぼ一致することを確めた。

3 使用染料の種類により明らかな差が現われ直接染料使用のものは染料流出が多かった。使用染料の部属を知ることは染色物取扱いの上最も大切なことである。しかし木綿もスフも堅牢な部属染料を用いているものが多くともに6級以上であり強度試験においても余り脆化をみなかった。最後に光電分光光度計で染色濃度・色差をみたところ規格とほとんど一致していることを確めた。